

令和5年度  
年間業務報告書

株式会社南紀白浜エアポート

2024年4月

空港運営5年目となる当期も事業計画（大枠では①空港活性化、②維持管理、③安全・保安の3項目に関する計画）に沿って以下のとおり事業を実施しました。

#### ①空港活性化に関する計画

- ・目標旅客数は23.0万人で、昨年度より20便の欠航便増でしたが、22.9万人の利用がありました。
- ・航空需要を高めるため、数十社に対してワーケーション体験・視察の受入を行い誘致活動を実施しました。また、ワーケーションで来訪した企業に対して、和歌山県企業立地課、情報政策課や白浜町・田辺市等と連携し、地域課題やサテライトオフィスなどを紹介して、企業誘致活動を実施しました。
- ・ワーケーションや顔認証視察、ビジネス出張や観光などで来訪した企業・個人に対して着地型旅行事業として宿泊・交通・飲食・体験等で約750件を手配しました。
- ・地元からの航空需要の喚起策として、20団体以上に対して空港バックヤードツアーを開催し、空港を身近に感じ、より親しんでもらう機会を設け潜在需要を創出しました。
- ・新幹線、関空利用、長距離バスでの東京－紀南の移動需要を白浜線を使ったルートへの転換を促すため、JR西日本や熊野御坊南海バス、和歌山県や新宮市職員とともに、啓発活動を実施しました。
- ・エアライン誘致の強化策として最重要事項はJAL定期便の維持と拡大で、乗継も含めた新規需要創出および拡大に向け、乗継利用促進協議会に参加・意見交換しJAL路線事業本部と継続的に協議しました。毎年チャーター便運航しているFDAには誘致営業を継続し、和歌山県観光部局には誘致インセンティブを依頼。2月に仙台・名古屋・福島・広島などで地方間チャーター便が実現しました。遊覧飛行についても地方間チャーター便と合わせて機材利用が可能な場合での検討、ビジネスジェット便では観光庁の観光再始動高付加価値プロジェクトで誘致を実施。9月に富裕層向けサービス拡充による受入環境整備の一環として、スカイトレック社と連携してアメリカンクラブ所属の富裕層向けプライベートジェットモニターツアーを開催。その他、一般の富裕層向けプライベートジェット利用の特別体験ツアーを2件販売しました。海外チャーター便については、7月にベトナムからのチャーターを受入、2月に大韓航空が運航する韓国からのチャーターを6便受入。
- ・空港および地域における利便性を向上させるため、宿泊・交通・飲食・体験の横断的におもてなしの拡充をしました。ワーケーションや長期滞在向けに宿泊・交通・飲食・体験プランを地域事業者と連携して着地型旅行事業の送客を行いながら拡充を実施。龍神エリアや有田エリアのワーケーション受入体制づくりを支援。

- ・新ターミナルビル開業に向け準備していましたが、7月にはベトナムからのチャーター受入、9月にコンシェルジュエリアを開業しました。

## ②維持管理に関する計画

- ・日常の維持管理については、日常点検、巡回点検、緊急点検を適切に実施し、検知された損傷をSOCOCA（巡回点検支援システム）に点検毎に随時記録し、補修、修繕が必要であれば緊急修繕を実施しました。更に、要補修か経過観察かの判断に迷う場合は、技術専門家に相談及び対応工法を検討後、必要に応じ随時補修を実施しました。
- ・更新工事については、和歌山県空港部局及び工事部局と工事状況にあわせ、随時協議を実施し、滑走路改良や誘導路灯LED化を実施しました。
- ・新技術の導入推進（空港DXの推進）については、ドライブレコーダー×AIを活用した滑走路点検をより高度化するため、点検車両の自動運転化実験を実施しました。また、「空港におけるカーボンニュートラル化実施計画策定支援事業」に関して航空局から事業を受託され、実施しました。

## ③安全・保安に関する計画

- ・セイフティ・セキュリティの両面において安全確保に努め、制限区域内の死傷者ゼロ、航空機損傷事故ゼロ、空港ビル・クリーンエリアへの不法侵入事案発生件数ゼロでした。
- ・空港スタッフ一体となった安全・保安意識の増強に努め、空港委員会（セイフティ）や空港保安委員会（セキュリティ）を適時実施しました。
- ・訓練については、航空機不法奪取訓練、航空機事故小か救難訓練、不法侵入事案対応訓練、航空機事故応急対応訓練を実施しました。
- ・3層の視点からのモニタリングにより、安全保安に関する業務品質の維持・改善に努めました。3層とは、日常業務管理、内部モニタリング、外部有識者を加えた外部モニタリングで継続的に実施し、空港の安全安心を継続的に担保しています。
- ・リスク管理会議を毎月1回開催し、ハザードを見極め、リスク評価し、改善・予防措置を実行しました。

以上